※令和４年度以降入学生用

学校番号	3028

令和５年度　教育文理科

教科	教育文理	科目	教育探究Ⅱ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	自主教材						
副教材等	課題研究メソッド 2nd Edition ～よりよい探究活動のために～（新興出版社啓林館）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「よりよい学校、よりよい大阪をめざして、あなたは何ができるか」という問いを探究することがこの授業の大きな目標です。具体的には、教育探究Ⅰの内容をより実践的に発展させ、実社会や実生活における課題を解決する活動を通して、次のようなことができることをめざします。
・授業の活動では「学び、（他者に）教え、（学び教えることを通じて）自ら育つ」という視点で、自らを取り巻く環境やその要因に対する興味を深め、より深い知識や概念を応用する方法を学び、情報を分析して自らの主張を合わせて発表できるようにしましょう。
・対話を通して深く考える態度、協働的な場を作っていく力を身につける。
・未知の物事への寛容性や異なる価値観を尊重する態度を身につける。

２　学習の到達目標

教育に携わるための探究の見方・考え方を働かせ、実社会や実生活における課題を解決する活動を通して、よりよく課題を発見し、解決していくための基礎となる資質・能力を応用して活用する力を次のとおり育成することをめざす。

（１）「学び、（他者に）教え、（学び教えることを通じて）自ら育つ」という視点で行う探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能の基礎を身に付け、探究の意義や価値の基本的な概念を理解し、活用することができる。
（２）実社会や実生活について、「学び、（他者に）教え、（学び教えることを通じて）自ら育つ」という視点から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することと他者の取り組みからの学びを自らの学びに活かすことができる。
（３）対話を通して主体的・協働的な探究の場を作るために自らおよび他者の個性を把握し、活用していくことができる。また未知の物事に対応する力、異なる価値観を尊重し、よりよい社会を実現しようと努力し、自らの考えに織り交ぜることができる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・与えられた手法を用いて事実的知識を獲得することができる。 ・収集した知識を「教育」という視点から、より深い知として統合する際に学びの分野が複数にわたっていることが見られる。 ・「教育」という視点から調査した結果や考察を発表する手法を理解することができる。	・調査結果や考察を発表する手法を適切に選択する場面で独自性を織り交ぜる様子が頻繁に見られる。 ・情報を分析し、理論に基づいて、より深い問いが立てられる場面が頻繁に見られる。 ・客観的な根拠を用いて説明し、論理的な説明を行う場面が頻繁に見られ、主張を客観的に表現することができる。	・自分と違う意見を尊重する態度を示し、自らの学びに活かす場面が時折見られる。 ・自己を客観的に見つめ、自らを取り巻く環境やその要因と自己を関連付ける場面が頻繁に見られる。 ・目標に向かって自律的に行動し、他者の個性を活かす協働的な作業を行う場面が見られる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	探究基礎	・グループに分かれて年間のテーマを設定し、テーマに対するタスクを考え、テーマと探究手法について検討し、決定する。	a:「教育」という視点から設定したテーマを探究する手法を理解している。 b:テーマに即して得られる情報を整理し、自らの思考を客観的に表現できる。 c:他者の意見や異なる価値観をテーマに活かしている。	発表 レポート	発表 レポート	ポートフォリオ 観察
	中間報告・ポスターセッション	・各グループで設定したテーマに即して収集した情報を精査し、発表を行う。 ・他グループの発表や意見から振り返りを行い、考察する。	a:複数の分野の知識を統合し、より深い知識や概念とむすびつけることができる。 b:テーマに即して、他者に伝えることができ、他グループの学習が発展するように気付きを表現できる。 c:役割の分担を丁寧に行い、それぞれの良さを活かすことができる。	発表 課題制作 レポート	発表 課題制作 レポート	ポートフォリオ 観察
2	探究事例学習	・先行研究や論文などから研究手法や探究の進め方を把握していく。	a:根拠に基づいた情報から得られる知識を整理し、活用することができる。 b:得られた知識を分析し、自らの探究に必要な情報を選ぶことができる。 c:自らの気付きに加えて、他者の指摘から学習を深めようとしている。	課題制作 レポート	課題制作 レポート	ポートフォリオ 観察
	グループでの成果発表	・グループで問いに対する調査・考察を行った結果をポスターにまとめて発表する。	a:これまでに学んだ手法を用いて適切に知識を整理することができる。 b:問いに対する考察を順序だてて発表することができる。 c:自らの発表と他グループの発表から新たな発見をしようとしている。	発表 レポート ポスター	発表 レポート ポスター	ポートフォリオ 観察

※令和４年度以降入学生用

3	今年度のまとめと次年度の準備	・発表の振り返りをもとに問いを再構築する。	a:収集した知識を「教育」という視点から、より深い知として統合することができる。 b:客観的な根拠を用いて理論的に説明することができる。 c:他者の意見や異なる価値観を尊重することができる。	プレゼン レポート	プレゼン レポート	ポートフォリオ 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度